

## 令和4年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	16	学校名	静岡県立中央特別支援学校	記載者	池谷佳代子
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安全・安心な学校づくり	子どもの人権を守る取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に求められる倫理観を備え、高い人権意識や人権感覚をもって児童生徒及び保護者と関わることができた職員100%</li> <li>・担当している児童生徒の人権教育の具体的な機会を把握することができた職員100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は、子どもに対して気持ちや人権を配慮した適切な関わりをしていると感じる保護者96.4%</li> </ul>
	災害時・非常時における防災、防犯体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種訓練や取組において、担当する児童生徒の安心安全や危機管理を考えたり、自分自身の防災防犯に関する知識を高めたりするなど、主体的に取り組むことができた職員100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、災害時に備えて適切な防災訓練を実施していると感じる保護者99.1%</li> </ul>
	命を守る緊急時・災害時の対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時や災害時を想定した訓練を通して対応方法を理解し、「緊急時や災害時に自分がどう動いたらいいのか」を定期的に見直すことができた職員100%</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、災害発生時の医療的ケアの対応について保護者と確認をしていると感じる保護者89.6%</li> </ul>
	安全・安心な給食の提供と摂食指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食の将来の願う姿を考え、発達段階を意識して摂食指導ができた職員90%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、安全な食事指導をしていると感じる保護者95.9%</li> </ul>
	感染症対策を踏まえた上で活動できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に感染症対策を確認して指導をすることができた職員90%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、新型コロナウイルス等の感染症に関する対策を適切に実施していると感じる保護者98.2%</li> </ul>
	児童生徒の視点に立った生活しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が生活しやすい環境を考え、改善することができた職員90%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、障害を配慮した安心して任せられる指導環境が整っていると感じる保護者94.6%</li> </ul>
	将来の豊かな生活を見すえた個別の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の将来の生活像から導かれた個別の指導計画の目標を設定することができた職員100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画について、十分説明していると感じる保護者100%</li> </ul>

様式第5号

生きる力を育む授業実践	「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にした授業づくり、生活指導	・取組目標にある3つの姿を明確にして授業づくりをした職員90%以上	A	A	・学校は、子どもにとって学びのある（何ができるようになるかや生活への広がり意識した）授業を実践していると感じる保護者97.3%
	進路指導の視点を生かした日々の指導や支援の充実	・進路指導の視点を個別の指導計画の作成や見直しに生かすことができた職員90%以上	A	A	・子どもは、日々の授業をとおして、（子どもの成長に合わせて）できることが増えていると感じる保護者94.5%
	生涯スポーツにつながる教育活動の充実	・生涯にわたってスポーツに親しむ姿をめざして「する・見る・支える・知る」の視点で教育活動ができた職員90%以上	B	B	
	児童生徒の実態に応じてICTを活用できる授業の検討	・指導においてICT機器の活用を検討又は実施できた職員70%以上	A	A	
	実態を的確にとらえた目標設定と、生活年齢や発達段階に応じた指導の充実	・「どんな姿を目指して」取り組んでいるのか説明できる職員90%以上	A	A	
	教職員一人一人が取り組む業務改善	・子どもと向き合う時間を活用して専門性や効果的なT-Tの向上について学び、それを生かして指導を実践することができた職員90%以上	A	A	
地域や社会に関わられた学校	地域や社会とつながり合う授業実践	・児童生徒と地域（麻機地区を含む静岡市及び児童生徒の居住地区）間で、双方向性のある授業（間接的な交流を含む）を実践できた職員90%以上	A	A	・学校は、地域との交流を大切にしていると感じる保護者91.1%
	地域と連携した読書活動や表現活動	・読書活動や図工・美術の作品展などを通して、児童生徒が外部の人たちと関わるための取組ができた職員80%以上	A	A	・子どもは、読み聞かせなどの読書活動等をとおして、本に親しんでいると感じる保護者88.1% ・子どもの作品や学習成果等を適切に提示し、意欲を引き出す環境づくりができていると感じる保護者98.1%